

実務経験のある教員等における科目の一覧表

科目名	単位(時間数)		科目名	単位(時間数)	
基礎看護技術 I	1	30	精神援助論 I	1	30
成人援助論 II	1	30	在宅看護概論	1	15
老年看護学概論	1	30	在宅援助論 II	1	30
小児看護学概論	1	30	看護管理	1	15
母性看護学概論	1	30			
計				9	240

【実務経験の活用】

看護師として5年以上の臨床経験を活かし、上記授業において、理論と実践の整合性を取り、各科目において看護学の専門性を深める教育を行う。

分野 (専門分野 I)

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
基礎看護技術 I	1 年次 前期	1 単位 (30 時間)	津坂 美保
実務経験のある教員 等による授業科目	病院にて 8 年間看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。		
科目目的・目標	目的：看護の概念や看護の対象を理解し、保健医療の中で看護を行うために必要な知識・技術・態度を学ぶ。 目標：看護技術の特殊性を理解し、看護活動の基本となる技術を習得する。		
授業概要	看護技術は、サイエンスとアートの融合であり確かな技術・知識・豊かな人間性が必要であることを学ぶ。また、看護技術の原則は、安全・安楽・自立の視点であることを常に念頭に置き、すべての看護技術を実践するうえで、対象の安全を守り、最大限の安楽を提供し、自立を促すという視点を養う。さらに、看護技術を有用で効果的なものとするために、患者との人間関係を発展させるコミュニケーション技法について学ぶ。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1 回	看護技術とは	講義
	2 回	看護の安全性と安楽性	講義
	3 回	看護技術にともなう看護倫理	講義・GW
	4 回	人間関係成立の技術 (コミュニケーションとは)	講義・GW
	5 回	人間関係成立の技術 (自己理解・他者理解)	講義・GW
	6 回	人間関係成立、専門的援助関係発展の技術	講義・GW
	7 回	コミュニケーションロールプレイ	演習
	8 回	コミュニケーションロールプレイ	演習
	9 回	医療安全	講義・GW
	10 回	医療安全	講義・GW
	11 回	感染防止の技術 (スタンダードプリコーション)	講義
	12 回	感染防止の技術 (無菌操作)	講義
	13 回	無菌操作	演習
	14 回	無菌操作	演習
15 回	終講試験・まとめ		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学③ 医学書院 基礎学テキスト 統合と実践 医療安全 学研 看護がみえる vol. 2 臨床看護技術 メディクメディア		
参考書	その都度提示		
評価方法	終講試験 80% レポート 20%		
合否基準	④ 100～90 点、A 89 点～80 点、B 79～70 点、C 69 点～60 点、 D 59 点～0 点の 5 種とし、④、A、B、C を合格、D を不合格とする。		
その他			

分野 (専門分野Ⅱ)

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
成人援助論Ⅱ	2年次後期	1単位 30時間	黒川 由美子
実務経験のある教員等による授業科目	大学病院にて6年間、主に急性期病棟にて看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、対象に対して状況に応じた看護が実践できる能力を養う。		
科目目的・目標	<p>目的：回復期にある成人の健康問題と生活の特性を理解し、障害を持つ患者への療養生活支援についての知識と技術を修得する。</p> <p>目標：1. 機能障害をもつ人が社会復帰に向けて自立するための看護を理解する 2. 機能障害によって生活調整を必要とする人への看護の方法を理解する</p>		
授業概要	<p>予期せぬ状況下での突然の発症により、何らかの障害が予想される状態にあり、リハビリテーションを必要とする患者と家族を理解する。また、障害に伴うボディイメージの変容への支援を学ぶ。そして、疾病や機能障害に応じた、その人らしい生活の再構築を支援する看護を学ぶ。</p>		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	リハビリテーション看護（回復期）の概念	講義
	2回	回復期にある患者の身体的・精神的・社会的特徴	講義
	3回	回復期疾患の治療と看護の特徴	講義
	4回	運動機能障害のある患者の看護①	講義
	5回	運動機能障害のある患者の看護②	講義
	6回	脳血管障害患者の看護①	講義
	7回	脳血管障害患者の看護②	演習
	8回	脳血管障害患者の看護③	講義
	9回	乳房切除術を受ける患者の看護①	講義
	10回	乳房切除術を受ける患者の看護②	講義
	11回	乳房切除術を受ける患者の看護③	講義
	12回	ストーマを造設する患者の看護①	講義
	13回	ストーマを造設する患者の看護②	講義
	14回	ストーマを造設する患者の看護③	講義
15回	終講試験・まとめ		
使用テキスト	<p>系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院                      系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院                      系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 医学書院                      系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 医学書院                      系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院</p>		
参考書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 医学書院                      系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院</p>		
評価方法	終講試験 70% レポート 30%		
合否基準	<p>④ 100～90点、A 89点～80点、B 79～70点、C 69点～60点、                      D 59点～0点の5種とし、④、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。</p>		
その他			

分野 (専門分野Ⅱ)

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
老年看護学概論	1 年次 後期	1 単位 (30 時間)	山田 良子
実務経験のある教員等 による授業科目	病院にて 12 年間、主に高齢者の看護師業務に従事。実務経験を活かし、高齢者と家族を理解し、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。		
科目目的・目標	<p>目的：老年期にある対象の特徴と老年看護学の機能・役割を理解し、老化に応じた援助、障害を持つ高齢者及びその家族への援助を考えるために必要な基本的知識を学ぶ。</p> <p>目標：1. 老年期の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 2. 高齢者を取り巻く保健・医療福祉の現況と対策について学ぶ。</p>		
授業概要	人口の高齢化に伴い、老年看護の重要性は増している。老年期を衰退の時期と捉えるのではなく、完成の時期と捉え、加齢によりどのような影響があるのかを理解しながら、老年期における看護の在り方を学ぶ。また、高齢化に関わる社会状況の理解を深め、求められる保健医療福祉サービスを理解する。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1 回	老いを学ぶ入口	講義
	2 回	高齢者疑似体験	演習 GW
	3 回	高齢者疑似体験	演習 GW
	4 回	加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の変化	講義
	5 回	ライフサイクル 発達課題から的高齢者理解	講義
	6 回	高齢者の生きてきた時代を知る 生活史	講義 GW
	7 回	統計的指標から見た老年期の理解	講義
	8 回	高齢者の暮らしと健康	講義
	9 回	高齢者の保健・医療・福祉の動向と現状	講義
	10 回	高齢者の療養生活を支える施設と看護	講義
	11 回	高齢者の療養生活を支える家族への支援と多職種連携	講義
	12 回	高齢社会における課題	講義 GW
	13 回	高齢社会における課題	講義 GW
	14 回	老年看護の理念と目標 老年看護に活用できる理論	講義
15 回	終講試験・まとめ	試験	
使用テキスト	医学書院 専門Ⅱ 「老年看護学」		
参考書	適宜提示		
評価方法	終講試験 90% 提出物 10%		
合否基準	④ 100～90 点、A 89 点～80 点、B 79～70 点、C 69 点～60 点、D 59 点～0 点の 5 種とし、④、A、B、C を合格、D を不合格とする。		
その他			

分野 (専門分野Ⅱ)

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
小児看護学概論	1年次 後期	1単位 (30時間)	大出 幸子
実務経験のある教員等 による授業科目	小児病棟にて5年間看護師業務に従事。実務経験を活かし、患児とその家族を理解し、対象に寄り添い、小児看護の機能と役割を理解し看護する能力を養う授業を行う。		
科目目的・目標	<p>目的：小児各期の特徴を理解し、小児の成長発達に応じた擁護と疾病・障害を持つ児とその家族に対する看護を学ぶ。</p> <p>目標：小児各期の特徴を理解し、小児の健康の維持増進、疾病の予防の施策と看護の機能と役割を理解できる。</p>		
授業概要	<p>小児看護の対象である「子ども」は単に大人の縮小版ではなく、一人の人間としての人権を持ち、身体的、精神的、社会的存在として成長・発達する存在である。健やかな成長発達を保障するために、看護師は子どもの成長発達の基本を理解し、家族を基本とした社会的サポートを支持・強化する役割を担っている。</p> <p>また現代社会は、核家族、母親の就労、小児の心身症、虐待、情報化社会の影響、小児の疾病構造の変化など子どもが成長発達する上でのさまざまな課題がある。</p> <p>小児看護概論では、子どもの成長発達の基本と影響する因子を学習し、子どもに関心を持ち、健やかな成長発達に必要な知識を学び、看護の機能と役割を学習してゆく。</p>		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	小児看護の対象および理念と変遷	講義
	2回	小児の成長発達の原則	講義
	3回	小児期各期の成長発達について	GW
	4回	小児期各期の成長発達について	GW発表
	5回	小児の成長発達（新生児・乳児）	講義
	6回	小児の成長発達（幼児）	講義
	7回	小児の成長発達（学童）	講義
	8回	小児の成長発達（思春期・青年期）	講義
	9回	家族の特徴とアセスメント	講義
	10回	子どもと家族を取り巻く社会1、法的側面	講義
	11回	子どもと家族を取り巻く社会2、子どもの免疫と予防接種	講義
	12回	小児の保健統計、小児看護で用いられる理論	講義
	13回	小児期における食事と栄養	講義・演習
	14回	子どもの遊び・おもちゃ作成	講義・演習
15回	終講試験・まとめ		
使用テキスト	メディカ出版 小児の発達と看護 メディカ出版 小児看護技術		
参考書			
評価方法	終講試験 90% 課題レポート 10%		
合否基準	㊤ 100～90点、A 89点～80点、B 79～70点、C 69点～60点、 D 59点～0点の5種とし、㊤、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。		
その他	講義内容によりDVDやビデオを視聴し学習する。		

分野 (専門分野Ⅱ)

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
母性看護学概論	1年次 後期	1単位 30時間	中里 まゆみ
実務経験のある教員等 による授業科目	助産師として病院に18年間従事。実務経験を活かし、母性看護の対象を理解し、対象を多角的な視点で捉える能力を養う授業を行う。		
科目目的・目標	目的：母性各期における対象を総合的に理解し、その対象がもつ健康課題と看護を学ぶ 目標：母性看護を実践するために必要な基礎的知識を理解できる		
授業概要	母性とは何か、母性看護とは何かを考え、女性の一生への支援、援助のあり方を考えていく。命の大切さ、家族を含めた看護の関わりについても学んでいく。母性看護の基盤となる概念の考え方や方向性を示していきたい。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	母性の基盤となる概念	講義
	2回	セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ	講義
	3回	歴史的変遷、統計、法律	講義
	4回	母性看護の対象理解	講義
	5回	女性のライフステージ各期	講義
	6回	思春期、成熟期、更年期、老年期	講義
	7回	ライフステージまとめ	講義
	8回	家族計画	講義
	9回	性感染症、HIV感染、人工妊娠中絶	講義
	10回	喫煙、性暴力	講義
	11回	虐待、国際化社会と看護	講義
	12回	性教育	講義
	13回	母性看護に使われる看護技術、看護過程	講義
	14回	母性看護のあり方	講義
15回	終講試験、まとめ		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1]母性看護学概論		
参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9]女性生殖器 国民衛生の動向		
評価方法	終講試験 90% 課題レポート 10%		
合否基準	④ 100～90点、A 89点～80点、B 79～70点、C 69点～60点、 D 59点～0点の5種とし、④、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。		
その他	講義資料の整理と管理は怠らないこと。		

分野（ 専門分野Ⅱ ）

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
精神援助論Ⅰ	1年次後期	1単位 (30時間)	竹島 裕子
実務経験のある教員等による授業科目	精神科病院にて10年間看護師業務に従事。精神に障がいのある対象とその家族を理解し、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。		
科目目的・目標	目的：精神が及ぼす健康問題について要因を理解し、精神の健康を維持・増進するための援助、また精神に障がいのある対象への基礎的方法を学ぶ。 目標：精神が影響する生活障害について知り、その人らしさを尊重した関係性の回復やアプローチについて知識・技術を理解する。		
授業概要	患者への広義の精神療法的接近は、一般看護の方法論と関連するところが多い。また、一般科でも精神的問題を抱えた患者は多い。この視点から、看護全般にもかかわる基本的な精神科の方法論を学ぶ。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	精神に関連する健康・生活障害と社会環境	講義
	2回	障がいを持つ対象の地域での生活を考える	講義・レポート
	3回	精神科とその対象をどう捉えるか	講義
	4回	ケアの人間関係におけるコミュニケーション技法①	講義・演習
	5回	ケアの人間関係におけるコミュニケーション技法②	講義・演習
	6回	場面における再構成（プロセスレコード）	講義・演習
	7回	回復を助ける（ストレングスに着目する）	講義
	8回	精神における入院と社会復帰	講義
	9回	精神科における回復と援助①	講義
	10回	精神科における回復と援助②	講義
	11回	精神科における回復と援助③	講義
	12回	精神科におけるリスクマネジメント	講義
	13回	リエゾン・つながる精神看護	講義
	14回	感情労働と看護師のメンタルヘルス	講義
15回	終講試験・まとめ		
使用テキスト	系看看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②（医学書院）		
参考書	講義の中で紹介します。		
評価方法	終講試験 80% レポート提出 20%		
合否基準	④ 100～90点、A 89点～80点、B 79～70点、C 69点～60点、 D 59点～0点の5種とし、④、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。		
その他	テキストは該当するところを講義の前後で読み返しておくことを勧めます。		

分野 (統合分野)

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
在宅看護概論	2年次 前期	1単位 (15時間)	山口 京子
実務経験のある教員等による授業科目	包括支援センターにて5年間保健師として従事。訪問看護ステーションにて5年間看護師業務に従事。実務経験を活かし、社会的サポートを実践する能力を養う授業を行う。		
科目目的・目標	目的：地域で生活しながら療養する人々、健康障害を持ちながら生活する人々とその家族（介護者）を理解し在宅看護の基礎を学ぶ。 目標：1. 地域看護のあゆみと在宅看護の概念について理解することができる。 2. 在宅療養者とその家族（介護者）及び、在宅看護を支える社会資源について理解することができる。		
授業概要	在宅看護と施設内看護との違いは、看護の場が生活の場であることである。家族・介護者・療養環境の理解や健康支援、継続看護、チームケア、ケアマネジメントの重要性と看護の役割についての理解を深める。また、各種社会制度の理解をしたうえで、訪問看護ステーションの成り立ちや背景、訪問看護の概要を学ぶ		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	在宅看護の概念	講義
	2回	在宅看護の変遷	講義
	3回	在宅看護の対象（在宅療養者とその家族への援助）	講義
	4回	在宅療養を支える看護	講義
	5回	在宅看護ケアの連携とマネジメント	講義
	6回	在宅ケアを支える制度と社会資源。関係法令	講義
	7回	在宅看護における安全・倫理	講義
	8回	終講試験	
使用テキスト	在宅看護論実践をことばに ノーヴェルヒロカワ 厚生統計協会： 国民衛生の動向		
参考書	その都度提示		
評価方法	終講試験 80% レポート 20%		
可否基準	④ 100～90点、A 89点～80点、B 79～70点、C 69点～60点、 D 59点～0点の5種とし、④、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。		
その他			



分野 (統合分野)

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
在宅援助論Ⅱ	2年次 後期	1単位 (30時間)	中安 ゆかり 高橋 美奈子
実務経験のある教員等による授業科目	中安：訪問看護ステーションにて7年間看護師業務に従事。 高橋：訪問看護ステーションにて現在従事している。 実務経験を活かし、患者・家族・療養環境を理解し、対象に対して広い視野で看護できる能力を養う能力を養う授業を行う。		
科目目的・目標	目的：地域で生活しながら療養する人々、健康障害を持ちながら生活する人々とその家族（介護者）を理解し在宅看護の基礎を学ぶ。 目標：1. 医療処置を伴う在宅療養者と家族（介護者）への援助の基本を理解する。 2. 在宅死を望む療養者とその家族（介護者）への援助の基本を理解する。		
授業概要	医療処置を必要とする療養者やその家族が安心・安全に生活するためには看護師の知識や技術が必要とされる。そのため、ここでは在宅で行われる医療処置として多い在宅酸素療法（HOT）、在宅人工呼吸法（HMV）、在宅経管栄養法（HEN）、在宅中心静脈栄養法（HPN）、膀胱留置カテーテル、腹膜透析、ストマケア、褥瘡ケア、疼痛管理について学ぶ。また、在宅での最期の時を過ごすことを選択した療養者と家族のライフスタイルや思いを尊重しながら、QOLの向上とその人らしく残された生を全うできるような支援について学ぶ。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	在宅医療と社会制度	講義
	2回	在宅酸素療法（HOT）を用いる療養者と家族（介護者）への援助	講義
	3回	” 演習	演習
	4回	在宅人工呼吸療法（HMV）を用いる療養者と家族（介護者）への援助	講義
	5回	在宅経管栄養法（HEN）を用いる療養者と家族（介護者）への援助	講義
	6回	在宅中心静脈栄養法（HPN）を用いる療養者と家族（介護者）への援助	講義
	7回	在宅で膀胱留置カテーテルを用いる療養者と家族（介護者）への援助	講義
	8回	在宅で腹膜透析（CAPD）を用いる療養者と家族（介護者）への援助	講義
	9回	在宅でストマをもつ療養者と家族（介護者）への援助	講義
	10回	在宅での褥瘡管理	講義
	11回	在宅での疼痛管理	講義
	12回	在宅で終末期を迎える療養者と家族（介護者）への援助	講義
	13回	”	講義・GW
	14回	”	講義
15回	終講試験・まとめ		
使用テキスト	メディカ出版 地域療養を支えるケア、在宅療養を支える技術		
参考書	その都度提示		
評価方法	終講試験 80% レポート 20%		
合否基準	④ 100～90点、A 89点～80点、B 79～70点、C 69点～60点、D 59点～0点の5種とし、④、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。		
その他			

分野 (統合分野)

授業科目名	開講時期	単位数	担当教員
看護管理	3年次 前期	1単位 (15時間)	堀口 公子
実務経験のある教員等による授業科目	埼玉メディカルセンター看護副部長・認定看護管理者。 認定看護管理者としての経験を活かし、多職種及び看護職のマネジメントについて多方面から授業や演習を行う。		
科目目的・目標	目的：医療システムにおける看護師の役割とその実践の方法について学ぶ。		
授業概要	目標：より良い看護サービスを提供するための看護管理の基礎を学び、望ましい管理の在り方を考える。		
授業計画	回	内 容	授業形態
	1回	看護管理とは、専門職の役割と機能	講義
	2回	マネジメントとは	講義
	3回	看護を取り巻く諸制度、医療制度について	講義
	4回	看護記録について、安全管理について	講義
	5回	医療事故、インシデント・アクシデントレポート	講義
	6回	組織目標達成のマネジメント	講義
	7回	ストレスマネジメント	講義
	8回	終講試験	
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践① 看護管理 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 1 (医学書院)		
参考書			
評価方法	終講試験 100%		
合否基準	④ 100～90点、A 89点～80点、B 79～70点、C 69点～60点、 D 59点～0点の5種とし、④、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。		
その他			